

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第3回）盛岡ブロック① 会議録
【盛岡ブロック①：盛岡市、滝沢市、雫石町、岩手町】

○ 日 時：令和元年8月5日（月）9時30分～11時30分

○ 場 所：岩手県水産会館 5階 大会議室

○ 出席者

① 会議構成員

盛岡市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

滝沢市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

雫石町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

岩手町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

② 事務局（県教育委員会）

県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）

○ 傍聴者：一般3人、報道4人

○ 会議の概要

1 盛岡ブロックの状況について

【県教委】

- ・ 資料 No. 1 「盛岡ブロックの状況について」に基づき説明。

2 後期計画策定に向けた意見交換

＜意見交換テーマ＞
各地域における学校・学科の配置について

【県教委】

- ・ はじめに、ブロックの現状及び課題等、議論の方向性について事務局から説明させていただき、その後、このことについて御意見をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料「後期計画策定に向けた意見交換（盛岡ブロック）」に基づき説明。

【県教委】

- ・ それでは、1点目「現状を踏まえ、今後、盛岡ブロックに必要な学校・学科について」に関する御意見をいただきたい。

【佐野峰 滝沢市副市長】

- ・ 資料3頁「中学校卒業生数の推移」の根拠となっている資料や算出方法について伺う。
- ・ 資料7頁「ブロック間交流の状況」について、過年度比較の状況を伺う。

【県教委】

- ・ 資料3頁「中学校卒業生数の推移」に関して、小学生以上の人数については、文部科学省が実施する学校基本調査によるものであり、未就学児の人数については、県の政策地域部が調査する年齢別人口によるものである。
- ・ 資料7頁「ブロック間交流の状況」の過年度比較については、過去3年間の状況と大きな差異はないものである。

【作山 雫石町教育委員会教育長】

- ・ 近年、盛岡ブロック内の私立高校は工夫・改善を重ねながら、特色ある教育を各校で展開しており、各校の特色がきちんと中学生に伝わるような取組も行っている。そのような取組が奏功して、中学校卒業生数が減少しているにもかかわらず、入学者数を増やしている私立高校もある。このことに関する県教委としての受け止め、及び、特色ある学校づくりや生徒確保に向けた県立高校の取組状況について伺う。

【県教委】

- ・ 私立高校への中学生の志望状況や入学状況は、県立高校の再編計画を検討する上で大切な要素の一つである。他方で、私立高校や県立高校、及び公立高校も含めて、それぞれが本県の高次教育を担っているため、それぞれの立場を考慮する必要があるものと考えている。
- ・ 現在の再編計画は、有識者会議を経て改訂した「今後の高等学校教育の基本的方向」を踏まえて策定されたものであり、当時も高校の魅力化や地域との連携等が重視されていた。現在は当時よりも魅力化や地域との連携等の意義がさらに高まっており、そのような認識が浸透して様々な取組が行われているところであり、今後も継続していかなければならないと考えている。

【熊谷 滝沢市教育委員会教育長】

- ・ 盛岡ブロックにおいて、私立高校はとても大きな役割を担ってきたと感じており、各私立高校の建学の理念等も尊重しなければならないものとする。一方で、少子化の現状や、中学生や保護者の公立高校志向が強い現状を鑑みると、志願倍率の高い公立高校の学級減等を行って学校規模を縮小するよりも、私学協会と調整し、私立高校の募集定員を改善することが必要とする。
- ・ 県立高校の今後の定員を検討するにあたり、私学協会との意見交換や調整等はどのように行う予定なのか伺う。

【県教委】

- ・ 私学協会とは年2回協議の場を設けており、県立高校再編計画の内容や進捗状況等について意見交換を行っている。私立高校の募集定員は平成27年度以降変わっていない状況にあるが、それぞれの建学の理念に基づいた教育を行っていることに配慮しつつ、県の施策や再編計画への理解・協力を求めていくものである。

【熊谷 滝沢市教育委員会教育長】

- ・ 私立高校の募集定員が平成27年度以降一定で、県立高校が学級減等を実施してきていることを考えると、中学校卒業生数の減少に対して、実質的に県立高校が対応しているという受け止めでよろしいか。

【県教委】

- ・ 私立高校と県立高校の募集定員の推移という点では、御指摘のような現状である。

【千葉 盛岡市教育委員会教育長】

- ・ 議論の方向性として資料2頁に示されている2つの観点について、既存の学科の種類や募集定員に関することなのか、学科の新設に関することなのか等、論点を絞り込むような説明をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料No.1にあるように、現状では盛岡ブロックには多様な学びが用意されているが、資料2頁に示すような課題等も抱えているところであり、社会情勢に鑑みて可能な限り工業科の学びの維持を望む声等もある。既存や新設に関わらず、今後どのような学科や学びが必要であるか御意見を頂戴したい。
- ・ 第2回の地域検討会議で、小規模校における教育の質の保証の観点から遠隔教育を積極的に導入すべき等の御意見を頂戴した。AIやIoT、ICT技術を活用して、小規模校に限らず様々な規模の学校において教育の質の向上を図るためのアイデア等について、様々な見地から御意見を頂戴したい。

【富士 岩手町農業委員会】

- ・ 各高校や各学科での学びの内容や取組状況等に関する様々な情報について、中学生にどのように発信しているものか伺う。

【県教委】

- ・ 県教育委員会では、県立高校における設置学科や学びの内容、部活動の設置状況等についてまとめた「ハイスクールガイド」を数年前から作成し、各市町村教育委員会や各中学校へ配付している。また、例年10月～11月に行われる入試説明会の中でも、可能な限り各学校の特色等について紹介しており、各県立高校においては、体験入学や学校説明会等において、中学生や保護者に対して学校の魅力等について情報発信しているものである。

【岩崎 盛岡市中学校長会】

- ・ 各中学校においては、1年次から計画的に進路指導やキャリア教育を行っており、将来を見据えた進路選択を主体的に行えるように指導している。
- ・ 高校で行われている学びの内容等に関する様々な情報については、高校の教職員を中学校に招いて行う高校説明会や、当該高校に進学した中学校OBを招いて行う先輩に学ぶ会等を開催したり、或いは、各高校が開催するオープンスクールや体験入学等に生徒を参加させて、各中学校において高校に対する理解を深めるよう取り組んでいるものである。

【岩崎 盛岡市中学校長会】

- ・ 各中学校においては、軽度発達障害等の理由により特別な支援を要する生徒に対して、どのように進路指導を行うべきか苦慮している状況にある。特別支援学校に進学しなければならないほどの障害ではないが、高等学校へ進学する場合には特別な支援を要する生徒が増加しており、現状では、そのような生徒を受け入れる態勢の整った県立高校の選択肢が少なく、多くの生徒が私立高校へ進学している状況にある。県教育委員会にあつては、特別な支援を要する生徒に、県立高校への進学を希望する人数が増加している状況を踏まえ、軽度発達障害等を抱えた生徒が安心して進学できる県立高校の整備をお願いしたい。

【県教委】

- ・ 特別な支援を要する生徒が増加していることは県教育委員会としても承知しているところであり、いわて特別支援教育かがやきプラン推進事業により、県立高校38校に41名の非常勤職員を配置（平成30年度実績）して特別な支援を要する生徒へのサポートを行っており、複数の県立高校では、今年度から通級指導を本格的に開始する等、軽度発達障害等を抱えた生徒の受入れ環境の整備を進めているところである。今後も継続して取り組むものである。

【千葉 盛岡市教育委員会教育長】

- ・ 議論の方向性として示されている1つ目の観点に関連して、盛岡ブロック内に設置されている総合選択制高校（不来方高校）と総合学科高校（紫波総合高校）に対する県教育委員会としての評価、及び、総合選択制高校と総合学科高校の将来的な取扱いの方向性を伺いたい。

【県教委】

- ・ 総合選択制高校は、普通科の中にスポーツや芸術、外国語等、複数の学系を設けており、生徒の興味・関心や進路希望等に応じて学系ごとに生徒を募集して入試を実施するが、入学後は他の学系の教科・科目も選択できる等、幅広く学習できる特長がある。不来方高校と花巻南高校（岩手中部ブロック）が該当しているが、中学生の志望者数は両校とも一定程度確保されている状況であり、評価を得ているものと捉えている。
- ・ 教育再生実行会議の提言に普通科改革が盛り込まれているため、それを踏まえた検討がなされるものと考えており、国の動向を注視しながら検討していくものである。
- ・ 総合学科高校については、紫波総合高校をはじめ県内に6校設置しており、複数の系列を設け、進路希望に応じて2年次から系列や普通教科、専門教科を選択できるため、高校入学後にじっくり考えて選択し、総合的に学びながら単位を修得できる特長がある。その反面、専門教科を学ぶ期間が専門高校よりも短くなるという点について課題が残ることから、各総合学科高校においては、地域の協力を得ながら体験的な学習・研修を行うことによって専門性を深める等の工夫を行っているものである。紫波総合高校については、地域からの評価が高いと聞いており、現時点では、このままの形態で残していきたいと考えている。

【佐藤 盛岡市PTA連合会会長】

- ・ 保護者の立場で子どもの進学先となる高校を選ぶ際の基準は、学力と通学距離（通学時間）の2つが大きな要素であると考えている。後期計画の策定に当たっては、例えば盛岡ブロックの葛巻高校、平舘高校、沼宮内高校、雫石高校が統合等によりなくなると、長距離の通学を強いられる生徒がいるということを念頭に置いて、慎重に検討していただきたい。
- ・ 盛岡市内の高校3年生の就職希望者を対象にして、将来の人生設計をするという趣旨の講座を担当する機会があった。参加者の多くが自分の人生について具体的なイメージを持ってない状況であったため、他の生徒も同様なのかと危惧している。各県立高校においては、自分の人生を明確に設計できる主体性等を育むキャリア教育を行っていただくようお願いしたい。

【袖林 新岩手農業協同組合南部エリア統括部長】

- ・ 中学生が進学先として高校を選択する際、学力だけでなく、居住している地域の地理的要因、家庭の経済的要因、特別な支援を要する等、様々な要因により制約を受け、希望する高校に進学できない生徒が多数いることは想像に難くない。
- ・ 学校数や学級数等の数の議論だけでなく、様々な制約を受けて高校に進学した生徒が、進学先の高校によって受けられる教育に差が生じないように、今後さらに普及していくであろうAIやIoT、VR等を取り入れたICT教育や遠隔教育を積極的に展開し、質の高い教育を平等に受けられるような仕組みの構築や環境の整備を行っていただきたい。

【福士 岩手町農業委員会】

- ・ 資料10頁のアンケート結果によると普通科志望が多数を占めている状況にあるが、この結果には、中学生時点で自分の将来像がイメージできず、将来の選択肢の幅が広い普通科に取り敢えず進学しておこうという消極的な選択をしている中学生も少なからずいるという側面もあるものと考えている。

- ・ 中学校低学年から、場合によっては小学生の時から、社会の仕組みや職業について理解を深めるような体験的な学習等を行っていただき、自分の進路選択や人生設計を主体的に出来るようになるためのキャリア教育を行っていただきたい。

【県教委】

- ・ それでは、次に2点目「中学校卒業生数が後期計画終了後もさらに減少していくことが見込まれる中、可能な限り現在の学校を維持する観点から、学級数の調整で対応する考え方と、学校の活力向上の観点から学校統合で対応する考え方等について」に関する御意見をいただきたい。

【佐藤 盛岡市PTA連合会会長】

- ・ 本県の中学生や保護者は、公立高校への進学を希望する割合が高いものとする。そのような現状を踏まえて、少子化による生徒数の減少に対して私立高校にも学級減等への協力を依頼することはできないものか。

【県教委】

- ・ 県教育委員会が行っている再編計画の対象は県立高校であり、私立高校については対象外と考えている。私立高校はそれぞれの建学の理念に基づいた教育方針や経営方針をとっているため、県の施策や再編計画について御理解いただけるようお願いをしていくものである。

【山口 滝沢市PTA連絡協議会】

- ・ 中学校卒業生数が減少しているため、中山間地にある高校の存続が危ぶまれる状況にあることは理解できるが、経済的理由等により遠方の高校まで通学させられない家庭があることも事実であるため、葛巻高校や雫石高校等の地域の小規模校は存続させるべきと考える。
- ・ 地域の小規模校がより良く存続するためには、高校の魅力化が必要であり、地域産業の特色を生かした取組を地域行政と協力しながら展開することで、地域の良さを知る生徒が増え、高校卒業後も地域に定着する人数が増えていくものとする。

【兼平 (株)兼平製麺所取締役社長】

- ・ 中学校卒業生数の推移や県の財政状況等を勘案して、民間企業の経営という視点から述べさせていただくと、学級数調整による対応ではなく、盛岡地区の普通高校を統合していく方が将来的に良いのではないかと思います。大胆な取組が必要である。

【猿子 雫石町長】

- ・ 議論の方向性に示されている学校の活力向上について、盛岡市周辺に位置する小規模校の活力向上には、盛岡地区への学校や生徒の一極集中を是正する必要があるとあり、盛岡地区の学校統合を行うべきと考える。県教育委員会としては、小規模校における活力向上の観点や大規模校における活力向上の観点をどのように捉えているものか伺う。

【県教委】

- ・ 高校教育の目的は、知・徳・体を備えた調和のとれた人間性を養うことであり、そのためには、入学した学校で充実した学びができ、部活動等の特別活動も希望に応じて行える環境を整えていくことが必要と考える。そのためには、1学年4学級から6学級程度という一定の学校規模を確保することが必要で、それにより、多様な学科の配置や専門性を備えた教員の配置が可能になり、生徒の選択の幅が広がり、様々な教育活動に対する満足度が高まることで、学校

が活性化していくものとする。

- ・ 小規模校においては、教育活動の様々な場面で制約が増えると想定されるが、ICT技術等の新しい技術の活用によって補っていくことで、生徒の満足度を高めることができるのではないかと考えるところである。

【猿子 雫石町長】

- ・ 現在、県境隣接地域高等学校入学志願取扱協定（隣接協定）により、雫石高校や平舘高校には秋田県から生徒が入学している。県内の中学校卒業生数の減少が予測される状況を考慮して、県外生徒の受入れを拡大する等、県教育委員会として何らかの手立てを考えているものか伺う。

【県教委】

- ・ 県外生徒の受入れについては、平成 30 年度に有識者等からの提言を受けたところであり、本県生徒の学ぶ機会を保障しつつ、県外生徒の受入れを行うための具体的な検討を進めているところである。一定の条件を満たした高校においては、令和 2 年度から受入れを始める予定である。

【千葉 盛岡市教育委員会教育長】

- ・ 議論の方向性にある必要な学校・学科を検討する際には、岩手の将来を担うために必要な人材や、その人材を育成するために必要な学びや学科について明らかにする必要があるものとする。本県の基幹産業である農業を担う人材の育成は不可欠であり、ものづくりに関する人材育成も重要である。
- ・ 資料 1 頁の高校教育の目指す方向性（案）について、広大な県土を有する本県の地理的状況を踏まえて教育の機会を保障するためにも、中山間地等、遠隔地の小規模校を安易に統合することなく存続させるべきとする。

【平澤 岩手町教育委員会教育長】

- ・ 議論の方向性の 2 点目について、以前から行われてきた生徒数等の数の観点に基づいた議論では、導かれる結論は学級減か学校統合のいずれかになってしまうものとする。
- ・ 岩手町内の小学校・中学校では、児童・生徒数が 1 学年 10 数名という学校もあり、学校教育の質が担保されているのか懸念していたところである。
- ・ 先日、町内の小・中・高校生によるリーダー研修会が開催され、各校の児童会・生徒会の生徒が集まり、町の将来のあり方について話し合う機会があった。大人たちの想像をはるかに上回る活発で斬新なアイデア交換がなされ、特に、沼宮内高校の生徒は年齢差を補いながら上手に話し合いをリードしていた。
- ・ 生徒の数が教育の質を左右すると思いがちであるが、決してそのようなことはないと思う。後期計画の策定に当たっては、県独自の評価基準・判断基準を定め、岩手ならではの教育環境を構築していただきたい。

【作山 雫石町教育委員会教育長】

- ・ 現在の県立高校が設置されたのは昭和 23 年以降であり、現在の雫石高校も盛岡第一高校雫石分校としてスタートし、その後、独立した経緯がある。同様に、多くの学校が設置されてきたが、いずれの学校も人口増加による生徒数増加等の理由により、必要があったから設置されてきた背景がある。人口減少期の現在において、まず始めにやるべきことは、生徒数増加に伴って新たに設置されてきた高校について見直すことであるとする。
- ・ 生徒数が減少するという現実と直面している中で、教育の質の保証と機会の保障を両立させ

るという非常に難しいテーマに向き合いながら、社会を創造する人づくりの実現に向けたメッセージ性のある後期計画が策定されることを願うものである。

【佐々木 岩手町長】

- ・ 同じ盛岡ブロック内の高校であっても、盛岡地区の高校と岩手町のような中山間地の高校では、置かれている状況や果たしている役割が異なることから、同じ議論はできないものと考え。過疎地域の地方創生の取組にとって地元高校の存続は不可欠であることから、沼宮内高校はぜひ存続させていただきたい。町としても、沼宮内高校の魅力化に向けてさらに支援をしていくものである。
- ・ 県外生徒の受入れを積極的に行うことで、地域の活性化に繋がる可能性が高まるものと考え。ぜひ県外生徒の受入れに係る制度の拡充をお願いしたい。

【県教委】

- ・ 高校が設置されてきた歴史も踏まえて高校再編を考えるべき等、貴重な御意見を頂戴した。後期計画策定の参考にさせていただきたい。
- ・ 各県立高校では、地域の皆様のお力添えをいただきながら学校の魅力化に向けた取組を進めているところである。今後とも御支援をお願いしたい。

3 その他

【県教委】

- ・ 意見交換の他に、皆様から御提言等あれば、この場で頂戴したい。

【千葉 盛岡市教育委員会教育長】

- ・ 別資料として配付されているハイスクールガイドには、各県立高校の学びの特色や部活動の設置状況等、様々な情報がまとめられていて、中学生にとって参考になるものと考え。
- ・ 各学校でどのような人材を育成しようとしているのかを明記していただければ、なお良いと思う。

【県教委】

- ・ 御指摘を踏まえ、より良いものを提供できるように改めていくものである。間もなく、令和元年度版のハイスクールガイドを配付するところであるため、御指摘いただいたことを参考に次年度以降にできる限り反映していきたい。

【平澤 岩手町教育委員会教育長】

- ・ 学校の様々な指導の場面において、生徒や保護者の進路希望に大学進学が多いから、大学進学に重点を置いた指導を行うというのは、高等学校の本来的な教育ではないと考える。各高校においては、どのような人間を育てたいのかという理念を明確にした上で、日々の教育活動に当たっていただきたい。

【福士 岩手町農業委員会】

- ・ 農業も大きな転換期を迎えており、社会情勢に機敏に対応し、先を見据えて取り組むことが求められている。簡単な例を挙げると、為替レートが円安に動いているので、損益が発生することを予測し、対応策を立てるといったことである。高校においては、生徒が主体的に日本や世界の社会情勢や経済情勢に興味関心を持ち、一般常識的な知識や思考力を身に付けるような教育を行っていただけるようお願いしたい。

【県教委】

- ・ 本日の地域検討会議では、地域における学校、学科等について具体的な御意見・御提言を頂戴することができ、地域の高校に対する強い思いを改めて感じた。
- ・ 私立高校の定員等について、私学協会との意見交換を定期的に行っているところであるが、私立高校には経営理念があるため、県として必要以上に踏み込んでいくことは適切ではないものとする。引き続き、再編計画について丁寧に説明し、御理解を得られるように取り組むものである。
- ・ 地方創生の中で高校がどうあるべきか、この地域の将来を考えた時に、これから生まれてくる子どもたちにも、しっかりとした教育を保障していくことが重要であるとする。
- ・ 県教育委員会では、今後の高校教育のあり方について、教育の質の保証と機会の保障を柱とすること、そして、高校再編は数ありきではないことを申し上げているところであるが、今後、さらに生徒数が減少し、厳しい現実となることは我々も認識しており、このことについては地域の皆様にも御理解いただきたい。
- ・ 本日頂戴した御意見は、後期計画の策定に十分に参考にさせていただく。今後とも、本県教育の振興のため、一層の御理解と御協力を賜りたい。

後期計画の策定に向けた地域検討会議(第3回)【盛岡ブロック①】

出席者名簿

No	市町村等	氏名	所属・役職等	備考
1	盛岡市	兼平 賀章	株式会社兼平製麺所 取締役社長	
2		佐藤 康之	盛岡市PTA連合会 会長	
3		千葉 仁一	盛岡市教育委員会 教育長	
4	滝沢市	佐野峯 茂	滝沢市 副市長	
5		阿部 正喜	滝沢市商工会 会長	
6		山口 恒司	滝沢市PTA連絡協議会 (滝沢市立滝沢第二中学校PTA会長)	
7		熊谷 雅英	滝沢市教育委員会 教育長	
8	雫石町	猿子 恵久	雫石町長	
9		袖林 広見	新岩手農業協同組合 南部エリア統括部長	
10		岩崎 憲悦	雫石商工会 事務局長	代理
11		堀 百合恵	雫石町立雫石中学校PTA 会長	
12		作山 雅宏	雫石町教育委員会 教育長	
13	岩手町	佐々木 光司	岩手町長	
14		福士 好子	岩手町農業委員会	
15		高村 博喜	岩手町PTA連合会 副会長 (岩手町立川口中学校PTA会長)	
16		平澤 勝郎	岩手町教育委員会 教育長	
17	地区中学校長代表	岩崎 雅司	盛岡市中学校長会 (盛岡市立河南中学校長)	
18		小山 孝治	岩手地区校長会 (滝沢市立滝沢南中学校長)	

【オブザーバー】

No		氏名	所属・役職等	備考
19	県議会議員	柳村 一	岩手県議会議員	
20		ハクセル美穂子	岩手県議会議員	
21		千葉 絢子	岩手県議会議員	
22		小西 和子	岩手県議会議員	
23	県立高等学校	中島 新	盛岡第三高等学校長	
24		片岡 順一	盛岡北高等学校長	
25		古川 岳夫	盛岡南高等学校 副校長	
26		山口 正行	杜陵高等学校 副校長	
27		菅野 修一	盛岡農業高等学校 副校長	
28		小野寺 秀樹	盛岡工業高等学校 副校長	
29		平山 道郎	盛岡商業高等学校 教諭	
30		千葉 雅彦	沼宮内高等学校長	
31		小原 由紀	雫石高等学校長	
32		馬場 香樹	紫波総合高等学校長	

【県教育委員会】

No		氏名	所属・役職等	備考
33	県教育委員会 事務局等	田村 忠	盛岡教育事務所長	
34		小林 満	盛岡教育事務所主任指導主事	
35		梅津 久仁宏	教育次長	
36		木村 克則	学校調整課首席指導主事兼総括課長	
37		藤澤 良志	学校調整課特命参事兼高校改革課長	
38		谷地 信治	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
39		小野寺 一浩	学校調整課高校改革担当指導主事	
40		女鹿 光介	学校調整課高校改革担当主査	